椅子

The Book of Chairs

人間工学・製図・意匠登録まで

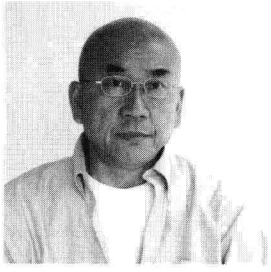
井上 昇 著

山海堂

The Book of Chairs

江苏工业学院图书馆
藏书章

山海堂



井上　昇　Noboru Inoue

1944年、福岡県久留米市生まれ。(株) いのうえアソシエーツ代表取締役。1999年より「井上昇の椅子塾」主宰。武蔵野美術大学、(株) 岡村製作所開発部を経て、Cranbrook Academy of Arts (大学院・修士) 卒。(株) 岡村製作所、(株) コクヨ、(株) イトーキ、(株) 天童木工、(株) 川島織物、他、インテリア、椅子の開発に携わる。日本IBMの椅子や、東京都庁、第2庁舎でつかわれている7036台の事務用椅子などをデザイン。最近は木の椅子の開発、販売など、総数で400万台をこえる実績を持つ。イトーキ・サクラルチェアで1998年「発明賞」(社) 発明協会、2000年「ライフワークとしての椅子デザイン」でJID賞・業績賞受賞。日本インテリアデザイナー協会会員。元デザイン保護委員会委員長。日本インテリア学会評議員。インテリアプランナー。1999年～2005年文化女子大学講師。弓道4段。

(株) いのうえアソシエーツ
〒107-0062　東京都港区南青山3-5-6.303
www.inoue-a.com
www.isujuku.com

書　名――椅　子　　定価はカバーに表示してあります

2004年10月25日　初版第1刷発行
2005年 2 月15日　第2刷発行

検印省略

著　者――井上　昇
写　真――藤塚　光政 (カラー4・5頁)
装　丁――井上　正人
発行者――松元　龍治

発行所　株式会社　山海堂
郵便番号 113-8430
――東京都文京区本郷5-5-18
電　話――03-3816-1617
振　替――00140-3-194982
印刷所　美研プリンティング (株)

落丁・乱丁本は取り替えいたします。©2004
PRINTED IN JAPAN
ISBN4-381-01637-8 C2052

はじめに

椅子をデザインしたい初心者の方々のためにこの本を作りました。この本では著者が主宰している「井上昇の椅子塾」での5年間にわたる椅子づくりの経験のなかから、分かり易く、誰でも椅子が設計できるよう要点をまとめました。私は椅子をデザインする上で大切なことが4つあるとおもいます。

1　座り心地が良いこと。　　椅子の人間工学
2　形が美しいこと。　　椅子のデザイン
3　作りが良いこと。　　椅子の製造技術
4　創作を保護する。　　椅子のパテント

前半の学習編では1番目に、椅子の歴史について簡単におさらいし、2番目に椅子をデザイン、設計する上でとても大切な「椅子の人間工学」について取り上げます。3番目に、椅子塾で実践している原寸による「椅子の設計図面」のかきかた、製図についてご説明し、4番目に、自分がデザインした「椅子のかたち」を自分でまもるために、特許庁に意匠登録を申請する方法を分かり易く具体的な実例を交えて取り上げます。5番目に、椅子をつくるうえでの材料を解説いたします。

後半の椅子製作編では過去5年間における、椅子塾生50名の作品をまとめました。これらの作品は、自分で製作した人もいますが、ほとんどの人は、プロの職人さんにお願いして製作しています。これには理由があります。1992年の秋、雑誌の取材でデンマークを代表する家具デザイナー、ハンス・ウエグナーさんを自宅にたずねました。お話ししたあとウエグナーさんの椅子を製作している2つの工場を見学しました。そのときつよく感じました。デンマークの一流の家具職人さんなしに、ウエグナーさんのあの名作はないと。デザイナーと家具職人。このコラボレーションがデンマーク椅子の評価の高い理由だと気づいたのです。一流の家具職人さんにお願いすると、高い技術と経験でつくっていただけるのでいい結果が期待できます。名作椅子をコレクションされて楽しんでいる方もおられると思いますが、さらに一歩、すすんで自分で考えたマイチェアーをデザインしませんか。日本全国どこでもできます。きっと素晴らしい体験となるでしょう。さあ楽しい椅子をつくりましょう。

2004年7月4日　　東京・青山にて　　井上　昇

目次

はじめに

椅子の歴史

1 椅子のデザインには歴史がある ……003
2 モダンデザインの歴史 ……005

椅子の人間工学

1 椅子の人間工学「理論編」……013
2 椅子のプロトタイプ ……018
3 ボディーゲージをつくる「人間工学実践編」…026

椅子の図面

1 椅子の図面作成の意味 ……031
2 原寸図をかく ……042
3 図面作成の進め方 ……045
4 部品図をかく ……052
5 図面の模写 ……055

椅子の意匠登録をする

1 椅子の意匠登録の意味 ……057
2 個人でできる意匠登録の仕方 ……061
3 書類作成のしかた ……062
4 出　願 ……065
5 椅子の特許登録—付録 ……086

椅子の材料

1 椅子を何で作るか ……089

椅子塾生の椅子

金子真由美 ……104
浜崎　政史 ……106
吉野　千尋 ……108
福田　覚 ……110
吉沢　詠志 ……112
槙野　匠 ……114
清本　路 ……116
井上　正人 ……118
岩田　一弥 ……120
櫻井　孝之 ……122
浅見　智史 ……124
石田早也花 ……126
本田　敬 ……128
山田　武則 ……130
越川　安奈 ……132
谷口　理恵 ……134
佐藤　徹 ……136
小野　弘美 ……138
斎藤　穂高 ……140
内田　玲子 ……142
高橋　元 ……144
豊丸　利恵 ……146
高倉　啓 ……148
吉田　彰 ……150
成田　亜美 ……152
佐藤　隆志 ……154
牛田　裕也 ……156
竹澤　泰平 ……158
坂本　由美 ……160
岩崎　克也 ……162
西村　真子 ……164
田中久美子 ……166
杉浦　千冬 ……168
妙中　俊之 ……170
角道　将人 ……172
太田　道子 ……174
阿部麻紀子 ……176
山田　崇之 ……178
杉山　啓子 ……180
島田　裕友 ……182
関井　和子 ……184
小口　穣 ……186
青山　和志 ……188
河西　周一 ……190
宮鍋　慶 ……192
武田　一英 ……194
千葉　幸栄 ……196
峠之内　靖 ……198
福地　公輔 ……200
田邊　良郎 ……202

あとがき ……205

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

椅子の歴史

1 椅子のデザインには歴史がある

1-1 椅子のデザインの歴史

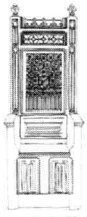
椅子の歴史は人類の歴史とともにあるといっていいでしょう。5000年前のギリシャやエジプトのレリーフ、絵などにも沢山の椅子がでてきます。それぞれの時代の生活にあわせて道具は進化し、形が時代の流行に合わせて変遷しています。西洋では、過去の椅子の発達およびデザインを見てみますと、建築や絵画の様式と連動している事がわかります。機能・形はこの様式、「イズム」と共に連動していることにより様々なかたちをたどっています。ちなみに私たちの生きている現在から過去をさかのぼって見てみますと、現在のポストモダニズム→モダニズム→キュビィズム（構成主義）→アールヌーボー様式→アールデコ様式→ロココ様式→バロック様式→ルネッサンス様式→ゴシック様式→ロマネスク様式→ローマ様式→ギリシャ様式と時代をさかのぼることができます。ポストモダニズム以後、何をさすのかよくわかりませんが、バウハウス以後の「機能、即美」に代表されるデザイン様式からまた「機能美＋装飾」へと移ってきているようにも思えます。

1-2 モダンデザイン椅子の源流

現在の私たちが日常、慣れ親しんでいるモダンデザインの流れは、ドイツのワイマールという都市に1919年、設立されたバウハウスという総合美術大学に始まるといってもいいでしょう。バウハウスの設立の理念は建築の下に、それまでバラバラに発展していた、建築、絵画、彫刻、家具、広告デザイン、舞踊、テキスタイル、陶器な

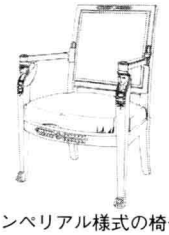
古代ギリシャの椅子

ルイ16世様式19世紀初期


英国ゴシック末期の椅子
12～14世紀ごろ

ウインザー様式の椅子
18世紀

イタリアルネッサンスの椅子
15～16世紀ごろ


インペリアル様式の椅子
19世紀中ごろ

イタリアバロックの椅子
17～18世紀ごろ

シェーカー様式の椅子
18世紀から

ロココ様式の椅子
18世紀ごろ

トーネットの椅子
19世紀から

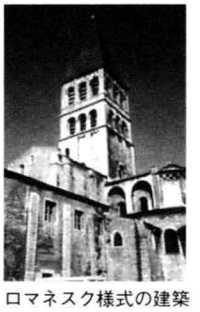
資料提供：
「椅子の様式」宮本茂紀・編、『室内』1997年7月号40～41頁引用

どの芸術を建築のもとに再統合しようという試みにありました。鉄とガラスとコンクリートの建築、家具及びデザインの分野では現在、我々が何気なくつかっている、見ているスタイルはほとんどバウハウススタイルといってもいいでしょう。家具ではスチールパイプの椅子、壁紙、システム的な収納家具、照明器具ほかシンプルで美しい、大量生産を前提にした物作りがバウハウスから始まりました。バウハウスは、1919年、ワイマールに設立されたのち、1925年にベルリンの南、デッソウ市に移り大発展を遂げます。全世界に大きな影響を与えますが、ナチス政権により弾圧を受け1932年、閉鎖されます。さらにベルリンに移りますが、1年後の1933年に完全に閉鎖させられてしまいます。その後、アメリカに亡命した最後の学長ミース・ファンデル・ローらによって1937年、シカゴにてニュー・バウハウスとして新たに学校が設立され、後にイリノイ工科大学に吸収されていきます。第2次大戦後、建築およびデザインの中心はアメリカに移り、主にミシガン州にあるクランブルック美術大学院に代表されるチャールズ＆レイ・イームズやフロレンス・ノルらの人々によってアメリカの家具デザインは発展していきます。しかし、ここでも忘れてならないのは、建築やアートと連動していることです。戦後、家具においてはアメリカのモダンデザインの他にイタリアのデザイン、ドイツのバウハウスの流れを受け継いでいるデザイン、北欧の家具デザインと大きなデザインの流れは4つあるといえるでしょう。日本の家具デザインは、この4つのデザインの影響を受けながら、発達してきましたが、オフィス家具のようなシステム的、工業生産的なものはドイツやアメリカの影響を受け、家庭家具は、イタリアや北欧から大きな影響を受けて発達してきています。

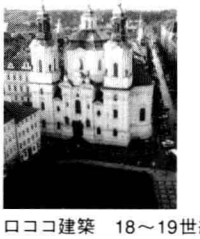
建築と家具の歴史

ギリシャ　パルテノン神殿　BC1000ごろ～BC146

ゴシック様式の建築
11～15世紀

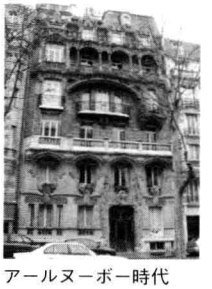


ロマネスク様式の建築
10～11世紀



ロココ建築　18～19世紀

ロココ時代の椅子



アールヌーボー時代
19世紀末～20世紀初

アールヌーボー時代の椅子

Gerrit T. Rietveld

ディ・スティール時代の椅子（構成主義）

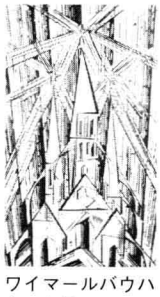
2 モダンデザインの歴史

2-1 ドイツ・バウハウス (1919～1933)

国立バウハウスは先に述べたように1919年に初代校長、ワルター・グロピウスらよってワイマールに設立され、その後、デッソウに移り、最後にベルリンで1933年に閉鎖されるまで、たった14年の短い歴史を持った国立美術大学でした。教育は基礎教育に重点を置きながらもマイスターとよばれる職人の親方と工房を持ち、学問としてのレベルの高いアートの分野の教授陣のもと、手をつかっての実務教育のプログラムは大きな成果をあげました。その理念、影響力はその後、全世界の美術学校がバウハウススタイル教育を目標としたことをみてもいかにすばらしい教育機関であったかわかります。それは今も変わりません。建築ではワルター・グロピウス、ハンネス・マイヤー、ミース・ファン・デル・ロー、絵画理論、基礎教育ではヨハネス・イッテン、ワシリー・カンジンスキー、パウル・クレー、ライオネル・ファイニンガー、ゲオルグ・ムッヘ、ヨーゼフ・アルベルス。デザイン、タイポグラフィー，金工ではモホリ・ナギ、グラフィックデザインではハーバート・バイヤー、舞台ではオスカー・シュレンマー、家具ではマルセル・ブロイヤー、ミース・ファン・デル・ロー、織物ではギュンタ・シュテルツ等々目をみはるアーチスト集団です。バウハウスの意味は、無名に近いアーチストが、学校という集団において、お互いが影響され、影響を与えつつ、参加する人の能力以上に隠れた才能を最大限引き出す「場」にこそ、本当の魅力はあるのです。バウハウスではたくさんの本が出版されていてそれは現在、手に入ります。私もワシリー・カンジンスキーの「点・線・面」という本に多くの影響をうけました。色彩の意味、形の意味について

近代デザインのルーツ

デッソウバウハウス外観正面


ワイマールバウハウス宣言

デッソウバウハウス外観

デッソウ内観

デッソウバウハウス寮

デッソウバウハウス劇場

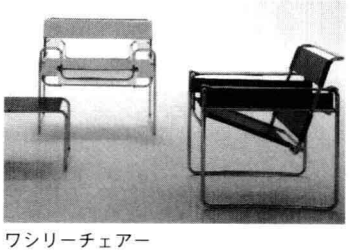
現在のワイマールバウハウス校内

ワイマールバウハウス外観

分析したバウハウスの教科書です。東ドイツが崩壊する3年前の1986年、あこがれのデッソウのバウハウスで、100万戸の国民住宅のための収納家具開発をテーマにしたワークショップがあり、私も参加させていただきました。バウハウス寮に2週間、宿泊し講堂を使い、東欧諸国、チェコ、ハンガリー、ブルガリヤ、ポーランド、そして東ドイツから参加した仲間と共同作業しました。まだ校舎の隣に、旧ソ連軍のキャンプがあり、軍人が沢山いてとても怖かったことを思いだします。その時、知り合った友人との交友は今でも続いています。デッソウ・バウハウスの建物はとても美しく、ガラス張りの中にいて、外で雨が降るとまるでその中にいながら濡れないふしぎな感覚に浸ります。ドイツの首都、ベルリンからライプチッヒに向かって電車で1時間半のデッソウ駅から、歩いて10分ばかりにあるデッソウ・バウハウスは、今では誰でも簡単に訪れることが出来ます。ワイマール・バウハウスも含めて東西ドイツ統一後、2度訪問しました。

Marcel Breuer

チェスカチェアー


ワシリーチェアー

Mies van der Rohe

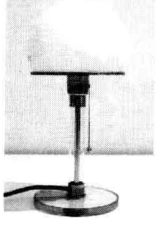
サイドチェアー

バウハウス・ワークショップ1986年、左から4人目が筆者

バルセロナチェアー

ブルーノチェアー

バウハウス セミナー


ヴィルヘルム・
ヴァーゲンフェルト

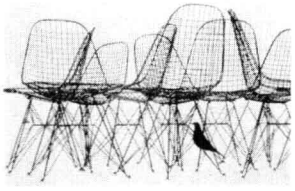
2-2 アメリカ・クランブルック (1927～)

CRANBROOK ACADEMY OF ART「クランブルック美術大学院」はアメリカ中東部、ミシガン州、デトロイトから自動車で、1時間ばかり北にあるブルーム・フィールド・ヒルズ市にあります。1927年にデトロイト新聞社オーナーのジョージ・G・ブース により設立された教育コミュニティーのなかの一つとして設立され、コミュニティーにはこのほかに小学校、男女別の2つの高校、科学博物館、教会などがあります。広大なキャンパスには大きな池や植物園、競技場、野外プール、学生寮もあり、小さな学校群ながら最高の環境の中にあります。クランブルックはアメリカでも数少ない大学院のみの美術学校で、絵画、建築、織物、写真、金工、彫刻、陶芸、版画、デザインの9学科があり、1学年約10人ずつ。2年コースですので1学科20人以内。各科目に教授が一人ずつ。デザインのみ2人。あと学長と職員も含めて200人足らずの小規模な学校です。教員は各自が自分の仕事で業績を挙げることとキャンパス内の教員住宅に住むことが条件になっており、学生は学生で24時間オープンの各自に与えられた個室スタジオで各自が決めたテーマに取り組む自主スタイルをとっています。過去の教員には建築、エリエル・サリネン、エーロ・サリネン親子、彫刻ではカール・ミレス、ハリー・ベルトイアー、デザインではチャールズ・イームズ、学生では、フロレンス・ノル、レイ・イームズ、デビット・ローランド、ドン・アルビンソン他、ハーマン・ミラー社やノル・インターナショナル社など50年代のアメリカ家具の黄金時代を築いたパイオニアが沢山でています。現在も著名な家具デザイナーを数多く輩出しています。アメリカにおける家具産業の中心地はミシガン西部のグランドラピッツ市です。アメリカは移民の国ですが、ここはオランダ系移民が数多く住んでいて、アメリカの家具産業はオランダ系、ドイツ系の人々により

CRANBROOK ACADEMY OF ARTS
近代アメリカデザインのルーツ

Cranbrook Academy of Arts, Michigan U.S.A.
カール・ミルスの彫刻とキャンパス。ミシガン州デトロイト郊外、ブルームフィールド・ヒルズ市にある。チャールズ&レイ・イームズやフロレンス・ノル他、ハーマンミラー、ノル社などアメリカ家具デザイン運動のルーツとなり沢山の人材を輩出している。

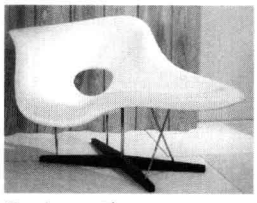
チャールズ/レイ・イームズとその作品



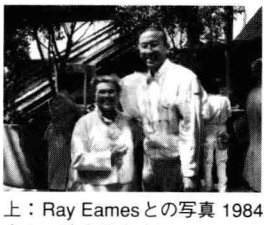
ワイヤーチェアー

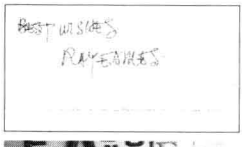
シェルチェアー

プライウッド　チェアー



ラ・シェーズ



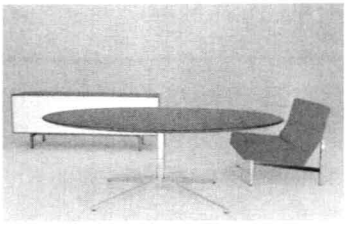


上：Ray Eamesとの写真 1984
右上：彼女のサイン
右下：Rayが撮った写真 1982

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

発達してきた歴史があります。デトロイトがアメリカにおける自動車の中心地ですが、自動車は工業的産業の代表のように思われがちですが内部に沢山のイスがあり、クラフトマンの業なしには成り立ち得なかったことも事実で自動車と家具、ハイテクとローテクの共通点はオランダ系移民のクラフトマンシップにあったのです。クランブルックの意味は小規模の学校ながらシカゴ・バウハウスがイリノイ工科大学に吸収されて、美術的方向から遠ざかった事もあって、写真も建築もデザインもアートとして位置づけ、実質的にバウハウスの理念をアメリカで継承する役割を果たし、第2次世界大戦後のアメリカでデザインの基礎と方向に大きな影響を与え、人材を多数輩出したことにあります。わたしが留学した1979～81年はベトナム戦争の記憶がまだ残っているときで、その時の建築科の教授が今回、ニューヨークのワールドトレードセンター跡地の建築コンペで優勝した、ダニエル・リベスキン氏でした。学校には、日本と違って多くの著名なアーティスト、建築家が泊まりこみでおとずれ課題を出したり講義をしたり、大学と社会が一体となっていてとても刺激的だったことを想い出します。テキスタイルの大御所、ジャック・レナー・ラーセン、建築家のフランク・ゲーリー、家具デザイナーのレイ・イームズ、ニールス・ディフェリエント、女流彫刻家のルイーズ・ネーベルソンらとマンツーマンで対話出来るのです。この時のレイ・イームズとの対話から帰国時にロサンゼルスのサンタモニカの隣り、ベニスにあった「109」イームズスタジオを訪ねました。レイ・イームズにとってもらった2枚の写真の一つが前頁の写真です。「109」スタジオはまさにイームズ・ワールドの世界でした。

H. and F. Knoll


フローレンス　テーブル

Eero Saarinen

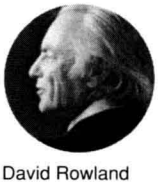
チューリップシェルチェアー

Don Albinson

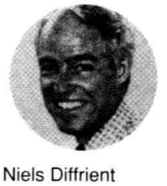
アルビンソンスタッキングチェアー

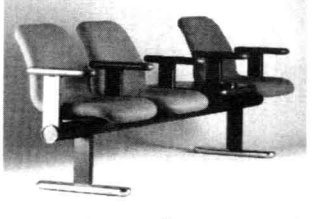
Harry Bertoia

ダイアモンドチェアーシリーズ


David Rowland

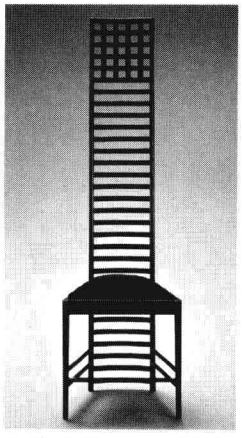
GF404スタッキング

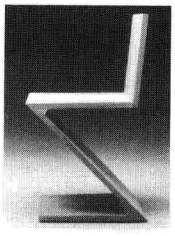

Niels Diffrient

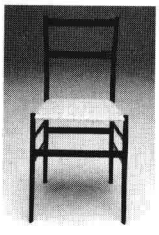

ヒューマナマルチプルシーティング

2-3 感性の表現としての椅子

人間が生活していく上で文化的生活を送ろうと思えば、「肌で感じる快適感」が椅子デザインの半分の要素をもっています。椅子の場合は、人間が直接肌で接し、第3の服といわれるだけに、「座り心地の良さ」がとりわけ大きいことは認める必要があるでしょう。しかし椅子のおもしろいところはそれだけでなく、人間工学的な快適感も大切ですが、「美」としての感性の高さもまた必要です。椅子はオフィスにおいても家庭や公共空間においても、その置かれる空間に及ぼす影響がとても大きく、「オブジェ」または「アート」としての美しさの要素も大きいのです。椅子は使える彫刻と言ってよいでしょう。オブジェとして、また人間工学的にもすぐれた椅子の例として、先に紹介した、アメリカにおけるモダンデザインの源流となった1950年代の家具を例に取ることができるでしょう。その代表例がチャールズ・イームズの椅子であり、ハリー・ベルトイァ、エーロ・サーリネンの椅子等です。良い椅子はまた人間工学的にもすばらしいのが多いのです。アートとしての家具はなぜ重要かといいますと、他の芸術作品と同じように「時代を超えていく要素」をもっているからです。長期間にわたって売れ続け、ロングライフ製品になる要素をもっていて、会社の利益ばかりでなく、創作者の利益にも結びつくことをも意味します。しかし単にアート的といっても、国によって、風土によってその感じ方は、人間が違うように異なります。日本には日本の「木の文化」としての風土、サイズの人間がおり、「石の文化」を持つヨーロッパはまたアメリカとにているようで違います。日本には日本の人間工学が必要なように、日本の美の基準に照らした形もデザインされることが望ましいでしょう。


チャールズ・レニー・マッキントッシュ


ヘリト・トーマス・リートフェリト


ジオ・ポンティー

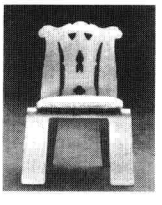
倉俣史朗

2-4　建築家の椅子

椅子の歴史の中で、多くの建築家が椅子をデザインしてきたことは意味あることです。昔は、建築家が建物をデザインすると同時にその建物にあった家具をデザインするのが普通のことでした。そして建築家のデザインしてきた椅子に名作が多いのも事実です。なぜ建築家の設計した椅子に名作が多いのでしょう。建築家の椅子は縦の線と横の線だけでデザインしたものがおおくさっぱりしています。椅子のデザインはよく小さな建築とも言われます。文化勲章を受賞し90歳すぎまで現役の建築家だった故、村野藤吾氏が生前よくいっておられました。建築家の本当の実力を見るには椅子の設計ができるかどうか、又そのできばえを見ればすぐわかるとも。椅子を設計できれば、建築もできるとも。

建築家の中で特に椅子のデザインで有名な名前を上げてみると、ミース・ファン・デル・ロー、マルセル・ブロイヤー、リートフェルト、ル・コルビジェ、エリエル・サーリネン、エーロ・サリネン親子、ガウディー、フランク・ロイド・ライト、アルバー・アールト、チャールズ・イームズも最初は建築家でした。最近ではフランク・ゲーリー、リチャード・マイヤー、マリオ・ベリーニ等が有名です。日本人の建築家では、長 大作氏、以外ほとんど見当たりません。

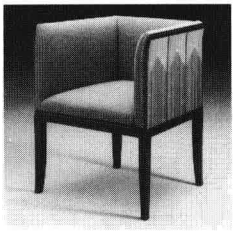
Robert Venturi



Richard Meier

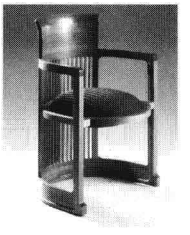
建築家の椅子

Eliel Saarinen

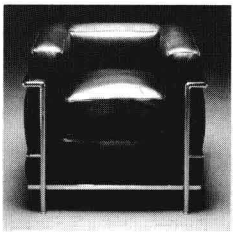


Antoni Gaudi

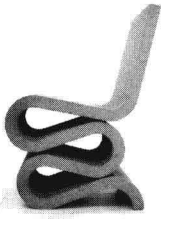
Frank Lloyd Wright



Le Corbusier



Frank O. Gehry



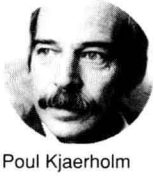
資料提供：
ハーマンミラージャパン株式会社
株式会社インターオフィス
ノールインターナショナルジャパン
株式会社カッシーナ・イクスシー

2-5 北欧の椅子

スカンジナビア家具とも言われる北欧諸国の家具は人気があります。長い冬に閉ざされる生活の中で自然の温かみを大事にし、木の素材、ぬくもりを大切にする生活の知恵から生み出された椅子は美しいの一言につきます。さらに20世紀にはいって沢山の優れた家具デザイナーがでてきてその評価はさらに高くなりました。フィンランドのアルバー・アールト。スウェーデンのブルーノ・マトソン。デンマークのコーレ・クリント、アルネ・ヤコブセン、フィン・ユール、ボーエ・モーエンセン、ポール・ケアホルム、そして、ハンス・J・ウェグナー最近ではルッド・チューゲンセンとジョニー・ソーレンセン、ヨハネス・ファーソンとピーター・ヨルト・ローレンセン等がいます。北欧の家具の特徴は家具職人のレベルが高く、家具メーカーもあまり大きいところがありません。品質にこだわり価格が高くても売れる家具をめざすPPモブラー社のような方向と、イケア社のように低価格路線で大量に販売する2つの方向があります。どちらも木や金属の素材を大切にするデザインでは共通性があります。

Arne Jacobsen

SERIES 7 セブンチェアー


Poul Kjaerholm

PK シリーズ

資料提供：フリッツ ハンセン ジャパン
PP Mobler ApS、カール ハンセン ジャパン

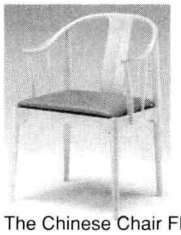
北欧の椅子

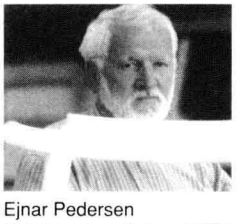
ハンス　ウエグナー（Haus J.wegner）
20世紀の椅子デザイナーの中でイームズと並ぶ巨匠ハンス・ウエグナー。五分の一モデルを自身で作る。

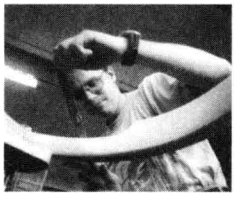
Armchair JH 701

The Chair JH 501

3本足シェルチェアー


The Chinese Chair FH 4283





Ejnar Pedersen
ハンス・ウェグナーの椅子を多く作っているPPモブラー社の前社長アイナー・ペダーセン。家具マイスターとしてハンス・ウェグナーの良きパートナー。デンマーク家具はデザイナーと家具職人との絶妙のコンビが高い家具の品質と伝統を支えている。デンマークではデザイン事務所は１人、ないしは２人というところが普通。家具会社も20数人という小規模な会社が多いが技術では最高レベルを維持している。

Rud Thygesen+Johnny Sorensen

J.Foerson+P.H.Lorenzen

2-6　日本の椅子

長い間、日本人は床に座る生活をしてきました。日本の椅子の歴史というとやはり戦後からの歴史になるのはやむを得ないでしょう。昔からの椅子と言えば、「床几」と呼ばれる折り畳み式のスツールかお寺でお坊さんが座る「曲ろく」であとは西洋から輸入され国産化された洋椅子が主です。日本人が取り組んだモダンデザインの椅子は戦後にバウハウスや北欧、アメリカの影響を受けつつ発展してきました。しかし日本の椅子デザインのパイオニア達は「日本の椅子」を作ることに力を注いだといって良いでしょう。その中でも、豊口克平と剣持勇はその作品と啓蒙で大きな影響を与えました。特に剣持勇はその作品の数の多さ、レベルの高さで際だっています。そのあとの椅子のデザイナーは渡辺 力、柳　宗理、長 大作、水之江正臣、松村勝男らがいて、日系アメリカ人である彫刻家のイサム・ノグチやジョーウジ・ナカシマの２人は木の素材を最大限に生かし、日本の椅子の形をデザインした功績は高く評価され、根強い人気があります。特にジョージ・ナカシマの家具は香川県の牟礼にある、桜製作所という北欧にもひけをとらないレベルの高い家具職人によって今も作り続けられています。

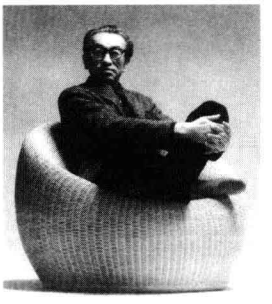
伝統工芸に近い領域では黒田辰秋や川崎寛治らが優れた作品を残しています。最近の作家では倉俣史郎がとてもオリジナリティーの高い作品を残しています。倉俣史郎の作品は座り心地という点ではやや問題を含みつつもその美しさ、感性の高さではぬきんでていて日本の椅子として後世にのこるでしょう。

川崎　寛治

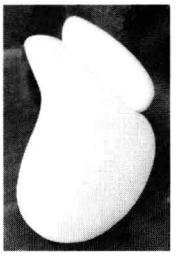
黒田　辰秋

柳　宗理

日本の椅子


剣持　勇

イサム　ノグチ



ジョージ・ナカシマ

渡辺　力

豊口　克平

長　大作

水之江　正臣

松村　勝男

倉俣　史郎

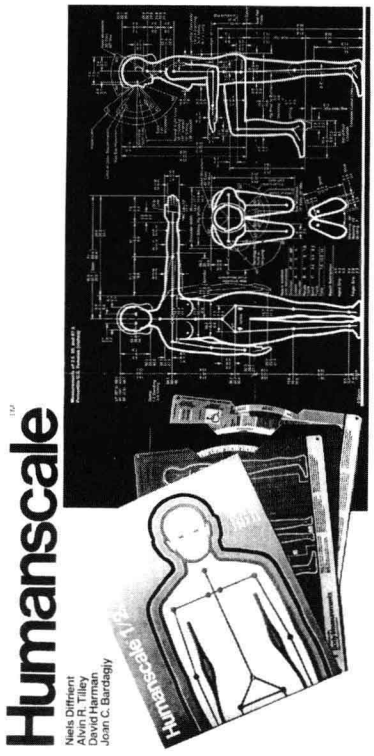
資料提供：
（株）天童木工、（株）インテリアセンター、
（株）桜製作所、（株）インターオフィス、（株）剣持デザイン研究所

椅子の人間工学

1 椅子の人間工学「理論編」

1-1 椅子の人間工学の意味

椅子をデザイン、設計するうえで椅子の人間工学はとても大切です。人間工学という言葉を初めて聞く方も多いでしょう。椅子の人間工学とは、椅子を使う人の寸法や動きを実際に測り、体験的、実験的にデータをとり、座り心地を分析しながら、椅子の座面や背面の巾、奥行き、高さ等の寸法や、座と背の角度、肘の高さ、座り心地等を数値化して資料にしたりして椅子の設計に役立てようという試みの学問です。人間工学の研究は椅子や家具ばかりでなく、飛行機から自動車、電車、家電、コンピューター、食器、衣類にいたるまで、我々が日常使っているもの全てのものが人間工学の対象になります。椅子の場合は長い時間座る道具として、健康面の配慮にかかせないものとして考えられています。



ヘンリー・ドレフス事務所デザインのヒューマンスケール

1-2 アメリカの人間工学 ニールス・ディフェリエント

ヘンリードレフス事務所の研究。

アメリカの人間工学は第2次世界大戦の時期に飛躍的に発展したといわれています。

戦闘機のような瞬間の判断ミスが生命の危険に直結する飛行機の設計において、メーターが適切に確認でき、瞬時の動きにも対応する、椅子や、計器類をふくむ室内の人間工学的考察と設計の研究がその始まりでした。

戦後、自動車や旅客機の内装及びデザインに意欲的に取り組んでいた、ニューヨークの大手デザイン事務所、ヘンリー・ドレフス事務所が

若きニールス・ディフェリエント氏の座りの実験

資料提供：ニールス・ディフェリエント氏

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com